

所蔵作品展

## 日本の工芸—自然を愛でる—

Cherishing Nature: Masterpieces of Japanese Modern Crafts from the Museum Collection

2017年12月1日(金)～2018年2月18日(日)

花鳥や四季の情景など、豊かな自然をモチーフとしたうつわやオブジェのほか、素材の中に自然の美しさを感じさせる作品など、約120点を紹介します。



広報用図版No.2: 板谷波山《氷華彩磁唐花文花瓶》1929年頃 個人蔵  
>>作品紹介はP.3

日本では、自然の移ろいゆく情景や風光の美しさに育まれた特有の自然観をうかがわせる多様な工芸が、暮らしを彩り日々の生活環境を装っています。無釉や単色の陶磁と色絵、染めと織り、漆塗りと蒔絵、金属の鑄込みと彫金、また天然の特質を活かす木竹など、素材を駆使して優れたわざを開発してきました。そうすることで自然にある美を感じとりかたちとして描写しています。いうなら日本の工芸は、自然を愛でることを主要な表題とし、時代に即した固有の表現芸術として発展してきました。厳しくも豊かな自然のなかで生きる私たちの生命観を反映したものでもあり、その文化は美しい日本の伝統を表しています。

板谷波山（陶）、森口華弘（染）、赤塚自得と高橋節郎、室瀬和美（漆）、海野清（彫金）は自然の事象を自らの表現で描きました。十二代三輪休雪や杉浦康益（陶）、藤田喬平（ガラス）、増村紀一郎（漆）は自然の形象の内に自らの創意を表しました。鈴木治と宮永東山（陶）、古伏脇司（漆）、田辺陽太（竹）は自然の事象から感受した心情をオブジェとし、そして角偉三郎（漆）、氷見晃堂と須田賢司（木）、藤沼昇（竹）は素材そのものの美と詩情とを結びつけて造形を追究しています。

本展では、当館が所蔵する近・現代の名品を主とした約120点を陳列して、自然を愛でる日本人の心が生み出した工芸の美をご紹介します。

## 東京国立近代美術館工芸館

報道関係の方の  
お問合せ先

展覧会担当／諸山、今井 広報担当／高橋

Tel : 03-3211-7781 (工芸課直通) E-mail : koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel : 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

<http://www.momat.go.jp>

長寿の象徴である「老松」を蒔絵で描いた室瀬和美の棗など、新年を迎えるこの季節にあわせて、晩秋から冬の情景、そして早春らしいモチーフの作品を展示します。

森口華弘の友禅のように描くことで自然を表した作品のほか、自然の中にある人の心象を表した三代宮永東山のオブジェ、作品のテーマとしての自然だけでなく、天然の素材としての魅力を味わえる須田賢司の木工の作品など、工芸ならではの自然の味わい方をご紹介します。

会場の一部では杉浦康益の「陶の花」の特別陳列や、作品を地水火風というテーマごとに見せる試みも行います。

会期中（1月頃）染織作品の展示替えを行います。（詳細はHPでご案内します）



広報用図版No.3



広報用図版No.4



広報用図版No.5



広報用図版No.6



広報用図版No.7



広報用図版No.8

【広報用図版】

No.3: 赤塚自得《常緑蒔絵料紙硯箱》1926～1936年頃 東京国立近代美術館蔵/個人蔵

No.4: 室瀬和美《老松蒔絵棗》2008年 東京国立近代美術館蔵

No.5: 三代宮永東山《山中暦日なし》1992年 東京国立近代美術館蔵

No.6: 森口華弘《友禅訪問着 桂垣》1972年 東京国立近代美術館蔵

No.7: 高橋節郎《森響》2002年 東京国立近代美術館蔵

No.8: 須田賢司《楓造拭漆嵌装箱 湖上月夜》2001年 東京国立近代美術館蔵



### 板谷波山、氷華彩磁による花瓶

氷華磁（ひょうかじ）とは、白磁を焼成したときに釉薬の種類によって、表面に結晶のような独特の景色を生じさせる技法のことです。板谷波山は、自身が研究した葆光彩磁（ほこうさいじ）同様、レリーフ状のモチーフに彩色し、氷華磁によって内側に深みを増した柔らかな色調の作品に仕上げています。

モチーフである牡丹のような唐花文様には、波山が研究したとされる更紗からの影響が感じられます。

広報用図版No.2: 板谷波山《氷華彩磁唐花文花瓶》1929年頃 個人蔵



### 特別出品

直径80cmを超える、巨大な牡丹の花のオブジェ。杉浦康益は、10年ほど前から花の作品をシリーズとして制作しています。本展では、この作品を含めた大型の作品2点と、約150点の小さなヒメシヤラの花で壁面を埋め尽くすインスタレーションを行います。

### 杉浦康益（陶芸家）

1949年東京都に生まれる。1975年東京藝術大学大学院美術研究科陶芸専攻修了。陶の石をインスタレーションする制作を国内外で発表して評価を獲得した。野外彫刻展や近年の「陶の博物誌」シリーズでも多く活躍してきた。

>>会期中、アーティストトークを行います。

広報用図版No.9: 杉浦康益《陶の博物誌—ポタンの花》2017年 個人蔵



### 人間国宝・巨匠コーナー

会場内の一室では、工芸館所蔵の名品から、重要無形文化財保持者（人間国宝）をはじめとする巨匠の作品を展示します。

本展の「自然を愛でる」というテーマにあわせた作品もご紹介します。

広報用図版No.10: 海野清《獅子牡丹彫金円形小箱》1924年 東京国立近代美術館蔵

## 開催概要

展覧会名	(日本語) 所蔵作品展 日本の工芸—自然を愛でる— (英語) Cherishing Nature: Masterpieces of Japanese Modern Crafts from the Museum Collection
会期	2017年12月1日(金)～2018年2月18日(日)
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(1月8日、2月12日は開館)、 年末年始(12月28日(木)～1月1日(月・祝))、1月9日(火)、2月13日(火)
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館工芸館
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
観覧料	一般250円(200円) 大学生130円(60円) 高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。 * ( )内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、会員証、社員証、障害者手帳をご提示ください。 <b>12月3日(日)、1月2日(火)、1月7日(日)、2月4日(日)は無料観覧日</b>
イベント スケジュール 内容や日程については変更 の可能性があります。最新 情報はHPでご確認くだ さい。	●アーティストトーク 12月17日(日) 杉浦康益(陶芸家) ●ギャラリートーク 1月7日(日) 諸山正則(工芸課特任研究員・本展企画者) ●タッチ&トーク 会期中水・土曜日(ただし、1月3日(水)は除く) 工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。<さわってみようコーナー>と、会場トークの2部構成で、さまざまな角度から展覧会の見どころを紹介します。  ※いずれも会場にて、午後2時から約60分。申込不要・参加無料(要当日観覧券)
掲載用お問い合わせ先	Tel : 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
公式HP	<a href="http://www.momat.go.jp">http://www.momat.go.jp</a>



## 東京国立近代美術館工芸館は2017年に開館40周年を迎えました。

東京国立近代美術館の分館である工芸館は、1977年日本の国立美術館の中で初めて、工芸とデザインを専門に扱う美術館として開館しました。2017年7月～2018年5月までの展覧会の会期中、40周年を記念したさまざまなイベントやキャンペーンを行います。

&lt;差出・発行&gt;

102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1

東京国立近代美術館工芸館 広報担当

広報用図版 請求票

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当 行  
発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	「日本の工芸—自然を愛でる—」展ポスター (11月1日頃より貸し出し可)
	2	板谷波山《氷華彩磁唐花文花瓶》1929年頃 個人蔵
	3	赤塚自得《常緑蒔絵料紙硯箱》1926~1936年頃 東京国立近代美術館蔵/個人蔵
	4	室瀬和美《老松蒔絵棗》2008年 東京国立近代美術館蔵
	5	三代宮永東山《山中暦日なし》1992年 東京国立近代美術館蔵
	6	森口華弘《友禅訪問着 桂垣》1972年 東京国立近代美術館蔵
	7	高橋節郎《森響》2002年 東京国立近代美術館蔵
	8	須田賢司《楓造拭漆嵌装箱 湖上月夜》2001年 東京国立近代美術館蔵
	9	杉浦康益《陶の博物誌—ボタンの花》2017年 個人蔵
	10	海野清《獅子牡丹彫金円形小筥》1924年 東京国立近代美術館蔵

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXでお送りください。
- ・作品図版はJPEGデータをご用意しています。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

ご担当者名：

E-mail：

貴社名：

出版物・放送番組・ウェブサイト名：

URL (http://www

)

掲載予定号・発行日/放送・公開日時等：

電話番号：

(

)

Fax：

(

)

\*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意いたします。

希望しない/希望する ( 5 組 10 枚)

〒

チケット送付先：